

## 【新潟市租税教育推進協議会長賞】

### 「税金とこれからの未来」

新潟市立下山中学校

三年 浜松 咲也

私たちが普段生活している中、税金によって支えられているものはたくさんあります。もし、税金がなくなってしまうと、医療機関は全て全額負担になり道路などは整備されず救急車、公園などが有料になってしまいうなど多くの支障が出てしまいます。さらに、綺麗な環境、道路、充実した医療機関の他、小学生や中学生全員が毎日使っている教科書も税金によって無償で支給されています。これらのことから、私たちにとって税金は日々安全に過ごしていくためのかけがえのないものなのです。そんな税金ですが、近年、税金を納める国民への負担が大きくなっています。例に、年金問題を挙げると、高齢者への年金は1965年は高齢者一人分の年金につき、10・8人で支えていたものが2000年は一人につき、3・6人、さらに2019年は一人につき、2・1人が支えているそうです。これは近年の少子高齢化が大きな原因となっています。少子高齢社会では、お互いが支え合って税金の集め方や使い方をよく決めることが重要です。私たちが大人になり働き手になっていく頃は、若者よりも高齢者の人口の方が多くなり、高齢者を支える働き手とのバランスが崩れていってしまいます。私は気になって調べてみると、それはわたしたちが普段払っている「消費税」で補われていることがわかりました。私は、年々増加していく消費税にはあま

り良いイメージを持っていない。「どうして払わなければならないのだろう」と考えていました。ですが消費税は、少子高齢社会となっている中、社会保障を充実させるためにすごく重要な役割を補っているということを実感し、私たちの生活は、消費税をはじめとした様々な税金によって支えられていることが改めてわかりました。

私は今まで税金と聞くと自分には全く関係のない難しいものというイメージがありました。しかし、税金は私たちの将来にも大きく関係する大切なもので、一人一人が大切に考えなければいけないのだと感じました。そして私たちだけでなく、次の世代の私たちの子供たちにも非常に大きな影響を与えるものだと思います。少子高齢化が進んでいる中、若者と高齢者のバランスをしっかりと取り、税金の集め方や使い方をよく考えるときに、税金の大切さやありがたさを十分に理解し、収入を得られる社会人になったときには、しっかりと納税し、税とこれからの未来についてさらに考えを深めていきたいです。